令和8年度　第1回羽黒地域振興懇談会　会議概要

1　日　時　令和 8 年 9 月 18 日(金)　午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分

2　場　所　羽黒庁舎　2階　会議室

3　出席者　委員　加藤省二委員、佐藤潤到委員、磯貝智洋委員、中川恵美委員、
五十嵐満委員、小南孝子委員齋藤一志委員、菅井奈緒委員
羽黒庁舎支所長　山口幸久、地域づくり推進課長　観世安司、産業建設課長　小林尚志、
地域づくり推進課長補佐　成澤紀美、地域づくり推進課専門員　矢口舞衣子
地域振興課専門員　佐藤祐

4　会議次第

1. 開　会
2. あいさつ　加藤会長
3. 新委員紹介
4. 報告
   (1) 令和7年度羽黒地域振興懇談会での意見への対応方針について　資料 1
5. 意見交換
   (1)令和8年度羽黒庁舎主要事業について　資料 2-1　資料 2-2
   (2)その他
6. その他
7. 閉会

5　会議資料

・【資料 1】令和7年度第2回羽黒地域振興懇談会での意見への対応方針について
・【資料 2-1.2】羽黒地域主要事業の取り組みについて

4 報告

(1)令和7年度羽黒地域振興懇談会での意見への対応方針について

（羽黒庁舎地域づくり推進課　観世課長、産業建設課　小林課長説明）

委員より意見・質問

【委員】

中学生の部活動が地域クラブへ移行になって、放課後に部活をするという環境がなくなってきている。試合に勝つことを目指すだけでなく、スポーツを楽しみたい子たちに機会を作ることも大切と考えている。教育委員会で羽黒中学校の生徒の状況や課題を含め実態を調べて教えてほしい。

【委員】

スポーツを極めたい子たちは地域クラブでいいと思うが、スポーツを楽しみたい子たちが宙ぶらりんになっている。地域クラブで体を動かす、スポーツが苦手な子であれば、こういう文化活動があるなど、もっと情報をだしていただきたい。

【地域づくり推進課長】

教育委員会でも、スポーツ、文化活動の両方に親しむことができる機会の確保というのが目的であると思うので、いただいた意見は教育委員会に伝えさせていただく。

5 意見交換

(1)令和8年度羽黒庁舎主要事業について

(2)その他

（羽黒庁舎地域づくり推進課　観世課長、産業建設課　小林課長説明）

委員より意見・質問

【会長】

まちづくり会社はうけたもう羽黒財団とは違うのか。

【地域づくり推進課長】

うけたもう羽黒財団とまちづくり会社は違うものである。

【会長】

7 番の羽黒山スギ並木保全計画策定事業は、R8 の取組状況や予算がないが今年は事業がないということか。

【羽黒庁舎支所長】

協議会で検討してきた、どう杉を守るか、文化財を守るかという活動が2つに分かれ、一つは財団に引き継がれ、公益財団法人を目指し利益を追求しない形の財団が設立された。もう一つの活力の創造については、まちづくり会社が収益をあげながら、地域の活性化を図る事業を行っていく。

【会長】

午年御縁年で観光客が増えているなか、インバウンドの人数が昨年8月と比較して今年の 8 月は 10%減の状況については中国系の来訪者が減っている影響からか。羽黒山は欧米人がかなり来ているように感じるが、その点について何かご意見あるか。

【委員】

昨年、斎館に泊まった日本人と外国人の割合は、一昨年に比べかなり外国人が多くなっている。全体の

人数からすると3割程度は上がっているということで今まさにインバウンド体制の構築を進めているところで、外国人の職員、ファシリテーターになれる人材の育成をしつつ、お山に上がっていただける外国人へのトランスレーションをきちんとしていこうと進めている。

また項目7番の羽黒山スギ並木保全計画策定事業においては、この4月に財団法人うけたもう羽黒財団が立ち上がり、鶴岡市と連携協定を結ばせていただき進めている。

今後、公益財団法人化を推進するとともに、来訪者からいただいた協力金を蓄えながら事業展開を図るというところである。

【委員】

修景整備を 52 件、実施率 49.5%とは何の件数の実施率なのか。修景整備の関係で、随神門前の公衆トイレの壁の色が落ち、木の地肌がみえてきているので塗り直しを検討してほしい。

また、宿坊の提灯がみすぼらしくなってきているのが多く見受けられるので、更新若しくはすべて取り止めにするか、どちらかにした方がいい。

もう一点、いでは観光ガイドがあると思うが、クルーズ船で来たお客さんに対するガイドをしっかり確立して、知識のない方が来る中で羽黒山の魅力を伝えるような、一般的なガイドの仕方を確立してもらえればと思う。

【地域づくり推進課長】

実施率については手向のまちなみをどうしていくかのプランを立てるときに、公益文化大学大学院に研究をお願いし、要整備屋敷数に松原町、八日町を加え、それを分母とした。提灯については、手向地区自治振興会がコミュニティ助成事業で実施したもので、いただいたご意見を手向地区自治振興会と相談しながら検討していきたい。

【産業建設課長】

随神門の公衆トイレの壁については、後程確認し対策を考えたい。また、クルーズ船については、今年度も酒田港に何隻か寄っており、春から羽黒山にもバスが来ている。こちらはツアーとして日程が組み込まれており、時間が決まっているため新たなスケジュールを組み込むことは難しい。現在は、ツアー客に対してウェルカムカードを配っている。今後スケジュールに意見を反映する機会があれば、ガイドがあることをアピールし、羽黒山の魅力を発信していく機会につなげていきたい。

【委員】

今年 4 ヘクタールの耕作放棄地で、国の補助を活用し、20 年程使っていない畑を綺麗に直した。今後は採算とれるように単収を上げるような作業を続けていく。

イベントについては、今年開催した 1day カフェに約 800 人が来場、販売商品が 1 時間余りで完売し、地域住民の関心の高さを実感した。羽黒地域には、羽黒山をはじめとした観光資源がたくさんあり、たくさんの人が立ち寄ってくれる環境づくりが重要だと思う。若い世代が子連れでたくさんいらっしゃるので、その方たちを意識した企画を立てると面白いと思う。

【会長】

告知は行ったのか。

【委員】

SNS と小さいチラシを郵便局に置かせていただいた。

【会長】

ひまわりの時期ということもあり、相乗効果で参加者が多かったのだと思う。ひまわりや麦の畑の道路が

すごい綺麗だが、月山に続く道路の両側が木の枝などが大変なので当局で何か考えていただきたい。

【委員】

羽黒山の随神門から降りるときに、雨天時は滑りやすく、高齢者も多いため、急な箇所だけでも手すりを設置していただきたい。また、大鳥居前の柿のモニュメントの表面が剥がれかかっているため綺麗にならないか。

【産業建設課長】

柿のモニュメントについては、市ではなく農協のもので、出荷組合などの団体で作ったものと思われる。

【羽黒庁舎支所長】

当時、柿の生産者団体とJAが連携し、羽黒町も補助を行っていた。市には道路占有申請に関する記録が残っていないため、JAまたは団体で県への手続きをしていると思われる。私も剥げているのは非常に気になっており、JA等と協議し、最終的にどうするか考えたい。

【委員】

随神門の階段の手すりについて、参拝者の安全上の対策を念頭に考えないといけないが、地域の伝統文化についても加味して、慎重に検討させていただきたい。

【産業建設課長】

いでは文化記念館では、雨の日には長靴の貸し出しを行っているが、周知が十分でない場合は、なお周知していきたい。

【羽黒庁舎支庁長】

杉が文化財に指定されていることから、構造物の設置には文化庁との協議が必要になるかと思う。教育委員会へ共有し、神社との調整等いろんな手順を踏みながら対応していきたい。

【会長】

基本方針3の活力ある地域づくりを担う地域コミュニティの推進について、一般公募で採択した事業で、昨年も公募していないが、今後も公募しないのか。

【地域づくり推進課長】

まちづくり未来事業枠があったなかでの公募だったが、それ自体がなくなり、今後どういった形で地域振興を図っていくかというところで、現時点では公募は考えていない。

【会長】

当初から予算組みできるものではない部分で、年度途中住民からこういうことをしたいという声が上がってくる可能性もあるため、それらを取り入れられるような事業を推進していただくとありがたい。

【地域づくり推進課長】

そのようにさせていただきたい。

【委員】

手向地区まちづくり推進事業について、実施率が 49.5%で統一感や意識の醸成が図られたというのは、どういう意識が統一されてきたのか。また、宿坊の提灯や門前の事業を通して、どういうまちづくりのビジョンがあるのか。少し具体化したお話が聞けると、自分の中で理解できるのではないかと思いました。

ひまわり畑は来訪者が年々増加している実感があり、ひまわり畑周辺のお店と協力し、手向からヒマワリ畑に案内する、ひまわり畑からも手向に案内するというような周遊できる環境がつくれたらいいと思う。

【地域づくり推進課長】

手向という地域にふさわしい色遣い等を進めていきたいというところが一つのビジョンとなって、修景整備

を実施してきた。最初は何でそんなことという声もあり、実際事業をやってくれるところがなく営業活動に行くこともあったが、現在はやはり色はこうした方がいいというような考え方に少しずつ変わってきたということが意識の醸成という意味での大きな成果だと思う。

まちづくりのビジョンについては、市としては、手向全体の景観などの統一感を出していきたいというところがあるが、手向地区自治振興会でもまちづくりのビジョンがあるので、地域の方々が自主的に行う活動を支援しながら、景観や地域活性化など良い結果につながるお手伝いができればと思う。

【産業建設課長】

ひまわり畑への来訪者数が感覚的には増加しているが、実際に何人来ているかという実数を把握できていないことや、来ていただいた方に周遊を促す仕組みが確立できていないことが課題となっている。飲食店等につなげていくにはどうしたらよいか検討しているところだが、いただいたご意見を実現できるように、にぎわいの拡大を目指し、周遊する仕組みづくりを検討していきたい。

【会長】

活性化センターは 30 年くらい修繕していないため、塗装の剥がれや屋根の錆など、受け入れる側の環境整備について今後の検討課題としてお願いしたい。

【委員】

羽黒には鶴の恩返しというボランティア活動しているグループがあり、去年までボランティアの子たちが誰もいなかったという話を聞いた。今年から高校生や中学生の参加者が集まり、実際に活動に参加して、羽黒への理解を深めるいい機会となった。中高生が参加しやすいように活動の周知を行い、これらの活動にぜひ子供たちを参加させていただきたいと思う。

【地域づくり推進課長】

将来を担う中高生の意見を聞くことは非常に大事なことであり、機会を作ることを考えたい。鶴の恩返しは、春に 0 人ということを聞き、そこから募集を行い増えてきていると伺っている。庁舎の職員の関わりが今まで薄く、抜けた後に人が入ってこない状況になって 0 人になったと思っている。こちらの職員の関わり方について、勉強しながら進めていきたい。活動内容についても参加者の子供たちからも考えていただきながら、市として予算的にお手伝いできるような事業であれば、そのような部分についても考えていきたい。

【会長】

青少年育成市民会議で実施している羽黒大家族会議では、今年は防災について、2 年前はいろんな特産品を考えるなど、中高生はいい感性の意見を持っている。意見を言わせるだけで終わらずに、実行させるようなシステムを作っていけば、地域の発展につながると思う。

【委員】

資料にはないが羽黒の主要事業として、泉地区地域活動センター老朽化に伴う早期整備について、進捗状況を説明していただきたい。

【地域づくり推進課長】

当初は泉地区地域活動センターと羽黒コミュニティセンターの機能を集約し、新しい施設を建てることを想定していたが、現状既存施設をなるべく活用して施設を減らしていかなければならない状況で、できるだけお金をかけずに将来負担を減らしていくため、羽黒コミュニティセンターを何年か後に廃止し、そこを改修し泉地区地域活動センターとする方針で進めようとしている。泉地区自治振興会と 5 月頃から一緒に検討をしているが、どういう施設にするかについては、泉地区の方とも協議中のため、要望等をできるだけ取り入れながら、改修に向かっていこうと考えている。

【委員】

泉地区地域活動センターには体育室とグラウンドもあるが、これらをどうするのか羽黒地域全体で考えていく必要がある。羽黒体育館の雨漏りや体育センターも古くなっており、体育施設全般をどうしていくか考えていただきたい。

【地域づくり推進課長】

要望については以前より聞いており、市でも検討中である。羽黒地域としてどうするかという点も大事だが、市全体としての必要性についても同時に考えていかなければならないと思っており、市全体の状況を見ながら、羽黒にどういうものが必要かという部分も含めて検討していきたい。

【委員】

ひまわり畑や月山に行くときに 11 団地を通過するが、特に玉川から入る道路や手向へ行く道路では杉の枝が伸びており車にぶつかるような状況で、交通事故になると大変なため、どこが対応するか確認していただきたい。

【産業建設課長】

個別の案件のため、現地確認をしながらできる対応を検討し、土地所有者との関わりもあるため調査しながら対応していく。

【委員】

去年の羽黒で子どもが生まれた数が 11 人だが、今年はどうなのか。羽黒で中学校が成り立たなくなる状況になるが、櫛引や藤島と一緒になるという話も今後出てくると思う。少子高齢化が進む中で、本当に子育てしやすいような施策を続けていただければと思う。

【地域づくり推進課長】

出生数は、6 月までの集計で羽黒 9 人、藤島 14 人、櫛引 7 人、朝日 9 人、温海 7 人といった状況。

以上。